

2050年の北海道港湾の将来像

「北海道港湾2050 ～グリーン&デジタル社会を創る北海道港湾～」

の実現を目指します！

北海道開発局は、2050年の北海道におけるグリーン&デジタル社会を実現するための北海道港湾のあるべき姿を描き、具体的施策として展開してまいります。

北海道の港湾は、物流・人流や産業活動の拠点として北海道の発展を支えており、今後の人口構造の変化や気候変動への対応、年々増加する観光需要の取り込みやIoT・AIといった情報通信技術の活用にも期待が高まっています。

このような将来の北海道港湾に対する要請を踏まえ、2050年のグリーン&デジタル社会を実現するため、北海道港湾がその集積の牽引を担えうる6つの産業（食料、グリーンエネルギー、情報・金融、観光、サハリン・北極海関連、物流）を取り上げ、2050年の北海道にこれらの産業が集積している姿、その産業を支える2050年の北海道港湾の姿、人口減少やデジタル社会の進展に応じた2050年の北海道内外の物流を支える港湾の姿を描きました。このビジョンを具体化し、施策として展開してまいります。

以下の北海道開発局ホームページに「北海道港湾2050 ～グリーン&デジタル社会を創る北海道港湾～」を掲載しています。

URL: https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/slo5pa00000aetj.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

港湾空港部 港湾計画課 港湾企画官 星 道太（内線 5612）

港湾空港部 港湾計画課 計画第1係長 竹部 公章（内線 5635）

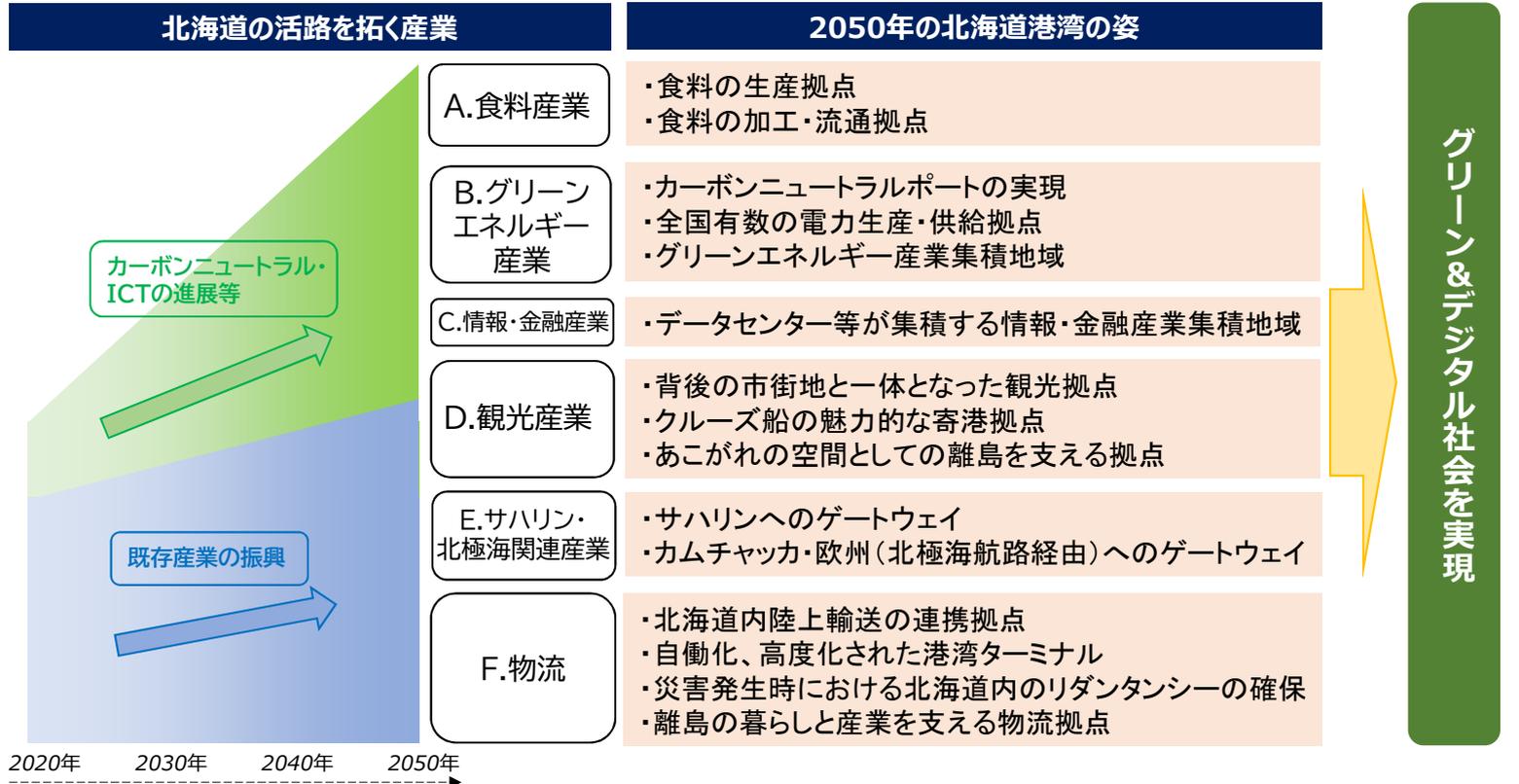
北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



追加：稚内港は古くからサハリンへの渡航ルートとしても活躍しています。又、観光の拠点としても、クッチャロ湖は白鳥の飛来地として有名です。その他、原生花園やオホーツク海のホタテ産業は特に有名です。

北海道港湾2050 ～グリーン&デジタル社会を創る北海道港湾～

北海道の港湾は、物流・人流・産業の拠点として、北海道の社会経済や道民の暮らしを支えるとともに、賑わい・交流や防災の観点からも重要な役割を担っています。その役割は時代とともに拡大・変遷してきており、今後もカーボンニュートラルやICTの進展など様々な社会情勢の変化に対応していく必要があります。そこで、2050年の北海道における**グリーン&デジタル社会を実現**するための北海道港湾のあるべき姿を描き、具体的施策として展開してまいります。



グリーン&デジタル社会を創る北海道港湾

B. グリーンエネルギー産業と港湾



サハリンとの活発な交流

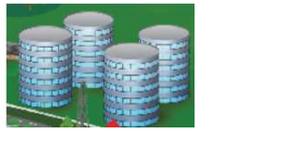
離島を支える拠点

E. サハリン・北極海航路関連産業と港湾



カムチャッカクルーズ
北極海航路

C. 情報・金融産業と港湾



カーボンニュートラル・ICTの進展等

洋上風力発電



クルーズ船

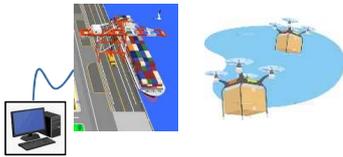


A. 食料産業と港湾



ブルーカーボン

F. 物流と港湾



本州との物流

食料・エネルギーの供給

D. 観光産業と港湾